



First Friends Dinosaur World Set

関節が動く恐竜と風景を使った、ミニチュアの世界での遊びです。大きさ・食性・生息環境による分類、比べるときに使う言葉、想像力を働かせたお話づくりを支えます。

内容

恐竜6体、背景・情景用パーツ

対象市場

家庭・教育の両方

セットの内容



First Friends T Rex



First Friends Brontosaurus



First Friends Pterodactyl



First Friends Stegosaurus



First Friends Triceratops



木、花、葉、山

子どもが学ぶこと

言葉

3歳にとって、長い名前は喜びです。Triceratops、Stegosaurus。大きい、小さい、とげとげ、首が長い、空を飛ぶ、といった言葉にも出会えます。

分類とマッチング

2本足か4本足か、翼があるかないか、とげか板か。まず見た目、次に食べ物で分けます。

手先の器用さ

頭をカチッと動かし、しっぽを曲げ、恐竜を自分の足で立たせ、木を所定の場所に差し込みます。

はじめての数

恐竜の数、足の数、とげの数を数えます。小さい順から大きい順に並べます。

世界を知る

ずっと昔、人間がいなかった頃のこと。そのころ生きていたものには、いなくなったものもあれば、木やシダのように今もあるものもあります。

想像力

台本も正解ありません。どの恐竜がやさしいかは、子どもが自由に決めます。

テーマ

恐竜

大昔の生き物

大きいと小さい

昔と今

すみか

数える

長い言葉



Learning through play

■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：12か月以上
床に恐竜1体。カチッ、曲げる、ドスン、ガオー。

大人と2人で遊ぶ：2歳以上
名前、分類、大きさの順序。大人が尋ね、子どもが恐竜を動かします。

少人数グループ：3～5歳
1人1体の恐竜で、世界をつくり、お話を語ります。

常設の遊びコーナー
砂や木の皮を入れたトレーに風景を添えて、恐竜のテーマ全体に使えます。どの園でも人気のテーマです。

■ 保育の現場で

小さな部品なし、歯固めにも安心。関節はカチッと動きますが、はずれません

拭いてきれいにできます。砂のトレーにも使えます

恐竜6体と風景が、深いトレー1つに収まります

どの恐竜も1体ずつ購入できます。セットではなく1体だけ交換できます

■ 観察のポイント

☐ 子どもは関節をわざとカチッと動かし、結果を見ようとしていますか？

☐ 決めたルールに従って分類し、そのルールを言葉で説明できますか？

☐ 世界をつくるとき、位置を表す言葉を使っていますか？

☐ 長い名前の拍に合わせて手をたたけますか？

☐ 恐竜を3体より多く、大きさ順に並べられますか？

☐ お話の自分の部分は、前の子の続きになっていますか？

■ 学びの領域

身体の発達

コミュニケーションと言葉

人間関係と心の発達

身近な世界の理解

数学

表現活動

■ セットを広げる

恐竜を今の動物のそばに並べて、何が変わったかを尋ねましょう。野生動物やポニーのシリーズと組み合わせれば、自然な「昔と今」の比較になります。

First Friends Crocodile

First Friends Elephant

First Friends Giraffe

First Friends Snake



1 カチッと動かして、ガオー

12〜30か月
子ども1人+大人

用意するもの

恐竜1体（Brontosaurusがいちばん持ちやすいです）。

進め方

1. 恐竜を見せます。頭を上下にカチッと動かし、「カチッ」と言います。
2. しっぽを曲げます。一歩ごとにドスンと言いながら、床を歩かせます。
3. ガオー。大きな声で、次に小さな声で。どちらにするかは子どもに選んでもらいます。
4. 恐竜を渡し、子どものすることをまねします。

学びのねらい

手先の器用さ

原因と結果

音

まねる

やさしく ― 大人が関節を動かし、子どもは体を持ちます。

難しく ― クッションの上に恐竜を自分の足で立たせます。お子様は恐竜のバランスを取って立たせられるでしょうか。

注目ポイント

子どもは関節をわざとカチッと動かし、その結果を見ようとしていますか？ 結果に注意を向けながら意図して行動することが、ここでのねらいです。

2 名前を言ってみよう

2〜4歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

恐竜6体を1列に並べます。

進め方

1. ひとつずつゆっくり名前を言い、音節ごとに拍手します。「トリ・ケラ・トプス」。
2. 「背中にとげがあるのはどれかな？」と尋ね、子どもに選んで名前を言ってもらいます。
3. 1体を隠します。「いないのは誰？」名前を言って戻します。
4. 子どもが質問する番にして、大人が恐竜を見つけます。

学びのねらい

語彙

音節

聞く力

記憶

やさしく ― 恐竜は3体にして、名前を一つ言うごとに1回手をたたきます。

難しく ― 指ささずに説明します（「空を飛ぶのはどれ？」）。子どもが名前を答えます。

注目ポイント

長い言葉を拍に分けるのは、音韻意識のはじまりです。4拍の名前を拍手できる子、いなくなった恐竜を覚えている子を記録しましょう。

3 2本足？ 4本足？

2〜4歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

恐竜6体。布またはトレー2つ。

進め方

1. トレーを2つ並べます。「2本足で歩くのはだれ？ 4本足で歩くのはだれ？」分けてみましょう。
2. もう一度分けます。「とげや板があるのはだれ？ ないのはだれ？」
3. 手助けしながら3つ目の分け方に。「植物を食べたのはだれ？ 肉を食べたのはだれ？」 歯を見て考えます。
4. 混ぜて、子どもにルールを選んでもらいます。

学びのねらい

分類

観察

推論

語彙

やさしく ― ルールは1つだけ、一度に恐竜2体にします。

難しく ― 1人が分け、ほかの子がルールを当てます。

注目ポイント

見える特徴で分け、次に与えられた事実で分け、最後に自分で考えたルールで分ける。これが進め方の順序です。ルールを説明できる子は、ただ集めているのではなく、分類しています。



4 小さいものから大きいものへ

3〜5歳
子ども1〜2人+大人

用意するもの
恐竜6体。

進め方

1. いちばん小さいものを探します。次にいちばん大きいもの。両端に立たせます。
2. 真ん中を埋めます。「これはあれより大きい？ 小さい？」
3. 列を確かめます。違うものは入れ替えます。
4. 端から端まで、ひとつずつ触れながら足の数を数えます。

学びのねらい

大きさの順序 比べる 数える 系列化

やさしく — 恐竜は3体にします（小・中・大）。
難しく — しっぽの長さや背の高さなど、別の基準で並べます。

注目ポイント

3つより多いものを大きさで並べることは系列化といい、算数の入り口となる大きな節目です。新しく置いたときに、隣と比べているか見てみましょう。

5 世界をつくろう

3〜5歳
子ども2〜3人+大人

用意するもの
風景パーツと恐竜すべて。川にする青い布または紙の帯。

進め方

1. 山を奥に置きます。「遠いのはどれ？ 近いのはどれ？」
2. 木と花を立てます。川を敷きます。
3. 子どもが1人ずつ恐竜を置いて、そこに住む理由を話します（葉を食べるから木の近く、水を飲むから水辺、など）。
4. 世界を変えます。嵐で木が倒れました。恐竜はこれからどこへ行く？

学びのねらい

世界を知る 位置を表す言葉 推論 協力

やさしく — 大人が風景をつくり、子どもが恐竜を置いて、どこに置いたかを言います。

難しく — Pterodactylは高いところが必要です。どこでしょう？ なぜでしょう？

注目ポイント

「うしろ」「となり」「遠く」といった言葉と、理由に耳を傾けましょう。理由を言って動物を置くことは、住む場所と必要なものを結びつけることです。

6 恐竜のお話

4〜5歳
子ども3〜4人+大人

用意するもの
つくった風景と恐竜。

進め方

1. 子どもが恐竜を1体ずつ選び、名前とその恐竜について1つ話します。
2. 大人がはじめます。「ある朝、T Rexはおなかをすかせて目を覚ました……」そこで止めます。
3. 子どもが順番に続きを加え、話しながら自分の恐竜を動かします。
4. みんなで終わらせ、そのあと「はじめに何が起きた？ 最後はどうなった？」と尋ねます。

学びのねらい

お話づくり 順番を待つ 順序立て 話す

やさしく — 大人がほとんどを語り、子どもは1人1文ずつ加えます。

難しく — 途中で問題（川があふれる）を入れ、恐竜たちが力を合わせて解決します。

注目ポイント

その子の部分は、前の話から続いていますか？ ほかの子の文に重なるのは共同のお話づくりです。あとで順番を語り直せれば、お話として理解できた証拠です。

